

岩手県における新型コロナウイルス感染症に関する見解

令和 4 年 11 月 15 日
岩手県新型コロナウイルス
感染症対策専門委員会

新型コロナウイルス感染症について、県内において増加傾向が約 1 ヶ月間継続していることに加えて、この冬に季節性インフルエンザも流行する可能性も踏まえ、下記のとおり専門委員会の見解を示します。

記

1 現状分析

(1) 国内での感染状況について（国公表資料から）

- ア 新規感染者数について、全国的に増加傾向となっており、全ての地域で今週先週比が 1 を上回っている。一方で、現時点では今夏の感染拡大時より急激な増加にはなっていない。
- イ 現在の感染状況には地域差があり、北海道では今夏の感染拡大のピークに迫るほど高い水準にあり、東北、北陸・甲信越、中国地方では多くの増加がみられる。一方、首都圏や九州・沖縄では 10 万人あたりで全国を下回っている。また、高齢者施設と医療機関の集団感染は一部継続している。
- ウ 全国の年代別の新規感染者数は、人口あたりでは 10 代を始めとして若い世代ほど多くなっている。また、新規感染者数が多い地域では、特に 10 代以下の増加が大きい。高齢者の新規感染者数も増加し、重症者数も増加傾向にあり、死亡者数は横ばいとなっている。

(2) 感染の増加要因と抑制要因について（国公表資料から）

- ア ワクチン接種と自然感染により獲得した免疫は、経時的に低下していると考えられる。また、60 代以上では、20-40 代と比較してワクチンの接種率は高いが、感染による免疫獲得は低く、高齢者層での感染拡大が懸念される。
- イ 国内では現在 BA. 5 系統が主流となっている。BQ. 1 系統や BQ. 1. 1 系統（BA. 5. 3 系統の亜系統）など、海外で感染者数増加の優位性が指摘されている系統について、今後、さらに割合が増加する可能性があり、注視が必要。
- ウ 現在は比較的換気を行いやすい気候条件であるが、今後の気温の低下により、換気がされにくい場合もある。また、冬に向かって呼吸器ウイルス感染症が流行しやすくなる。

(3) 対策と基本的な考え方について（国公表資料から）

- ア 再度の感染拡大や、季節性インフルエンザの同時流行にも対応できるよう、限りある医療資源の中でも高齢者・重症化リスクの高い方に適切な医療を提供するための保健医療体制の強化・重点化を進めていくことが必要。
- イ 国民ひとりひとりの自主的な感染予防行動の徹底をお願いするとともに、保健医療体制の強化・重点化を進めていくことにより、高齢者等重症化リスクの高い者を守るとともに、

通常医療を確保する。

(4) 県内での感染状況について

- ア 新規感染者については、8月21日に過去最高の2,017人となり、第7波のピークを記録した後は、減少が続き10月11日に120人となった。しかし、その後は増加に転じ、11月15日には1,693人となるなど、約1ヶ月間に渡り増加傾向が続いている。
- イ 年代別の新規感染者については、10月以降、10代が約20%を占め、最も多くなっている。また、10歳未満、30代及び40代がそれぞれ約15%を占めている。
- ウ 病床使用率は、11月に入り25%前後で推移している。

(5) 季節性インフルエンザの感染状況について

- ア 国内のインフルエンザの流行レベルは低く、横ばいから微増傾向である（国公表資料から）。
- イ 県内におけるインフルエンザ定点医療機関（63ヶ所）からの患者報告は、9月以降は3例となっている。

(6) 行政の対応状況について

- ア 国においては、9月8日に「Withコロナに向けた政策の考え方」を示し、高齢者・重症化リスクのある者への保健医療の重点化、患者の療養期間の見直しなどを行った。
- イ 患者の発生届については、全数届出の見直しが行われ、9月26日から65歳以上の者等の4類型が発生届の対象となっている。
- ウ 本県においては、第7波の感染拡大に伴い、9月9日にいわて検査キット送付センター及びいわて陽性者登録センターを設置し、感染拡大時にも医療機関のひっ迫を防止する対策を講じてきたところ。
- エ 併せて、国の基本的対処方針に沿った対策を継続しており、発生届の対象外となる若い軽症者等にも健康サポートを行う体制を整備してきたところ。
- オ また、県ホームページや広報媒体などを活用するとともに、県対策本部員会議などを通じて、基本的な感染対策の再徹底について周知を行うなど、最大限の注意喚起に努めている。

2 専門委員会としての見解

(1) この冬に予想される感染拡大に対応した取り組み

(基本的な感染対策)

- ア 感染対策の細目についてはさまざまな意見のあるところであるが、これまでに検討されてきた手段に変わる単一の予防法は確認されておらず、国の基本的対処方針や政府見解等の正しい情報に基づき、県民各位における感染拡大抑制対策の再確認と強化を呼びかけるべきである。

すなわち、マスクについては、「不織布マスク」の着用を基本とし、屋外にあっては概ね

2メートル以内の近接や会話が予測される場面、多数の人々が集う場所やイベント開催時などにおいては、主催者がその都度の着用の推奨を明示し、これを参加者が励行することが基本である。家庭生活においても、流水と石けんによる手洗いやアルコール刷込みによる手指消毒を励行することは、同時に流行する可能性のあるインフルエンザに対しても有効である。また、換気については、気温の低下により不十分となりやすい冬季を迎えるが、室温の低下に留意しつつ、家庭、施設、事業所などの特性に応じて、効果的に行うことが重要である。

さらに、各自が自身の体温や体調の変化を把握して、異常を認めた場合は、業務やイベント等への参加を見合わせることで、集団としての感染者発生防止に寄与する。会食等の場面では、マスクを外す場面が多いため、参加前後の体調変化を3日から5日間程度慎重に観察し、症状の出現時には積極的に抗原検査を用い、家庭内・職場内での同時多発的な感染を抑制する必要がある。

(イベント参加後の留意事項)

イ オミクロン株の特性から変異の種別にかかわらず、感染者との接触から発症までの日数(潜伏期間)が短いことから、接触後3日から5日間程度における症状発現の有無が感染検出に有用であり、団体個人にかかわらず有症状者のイベント参加を厳密に避けることは重要であるが、参加前の無症状者に対する網羅的検査の有用性は低く、むしろイベント参加後における症状出現時には自主的に就業を見合わせ、参加団体等において適切な検査により直ちに感染者を特定する手順の確認が肝要である。

さらに、一定地域あるいは集団における感染拡大がみられる場合には、集団や施設における集中検査を実施することで、関連職員等への感染拡大抑制に一定の効果が期待できる。

(オミクロン株対応ワクチン)

ウ オミクロン株対応ワクチン未接種者については、接種可能間隔が3か月に短縮されたことを踏まえ、接種可能時期に至ったら、可能な限り早期にオミクロン株対応ワクチンを接種することを強く推奨する。特に、医療従事者などへのこのような推奨は、接種不可とする妥当な理由が無い限り、重症化リスクのある利用者に接する施設総体としての基本的責務であり、積極的に接種を勧奨すべき時期である。

(医療従事者の留意事項)

エ 医療従事者においては、家庭内・職場内での同時多発的な感染を抑制するため、多数の人々が集う場所での滞在やイベント参加の可能な限りの回避が望ましいが、施設として参加を許可する際には、リスク軽減のためのルールを設けて業務継続計画の一部とすることを推奨する。(例：仮に参加する際には可能な限り自ら抗原検査キットを確保し、参加後3日から5日間程度の自己観察を行うこと。さらに無症状でも感染源となり得ることを自覚し、復職時の客観的な症状確認を行い、症状出現時には勤務先に連絡し、即時に自宅待機するとともに、あらかじめ確保した抗原検査キット等を用いた迅速検査を推奨する。)

(クラスター対応)

オ 全数届出の見直し後は、クラスターの発生の把握が従前よりも困難となっており、保健所は、高齢者・障がい児者施設や医療機関のクラスターに重点的に対応しているが、これら以外の施設、事業所等においてクラスターが発生した場合においては、自主的に濃厚接触者の特定、国の指針に準拠した外出自粛の実施が求められる。

(事業継続計画等)

カ 今後の感染状況の急激な変動に備え、改めて基本的な感染防止策の再確認を呼びかけるとともに、高齢者や基礎疾患がある方、また、医療従事者などのエッセンシャルワーカーについては、一般市民とは異なる次元でのBCP（事業継続計画）の確認や重点的な感染対策の実施が必要である。また、一般市民においては、自宅療養に備えた生活物資の流動的備蓄（買い置きを増やす）を推奨する。

(季節性インフルエンザ)

キ 季節性インフルエンザについては、国をあげた積極的な感染対策の効果もあり、国内における過去2シーズンの流行は低調に推移してきた。一方でこれに伴う免疫の低下、南半球における流行や市中における行動制限の緩和等を踏まえると、この冬には国内においても流行する可能性があり、季節性インフルエンザワクチンについては、65歳以上の方など定期接種の対象者を含め接種を希望する方は、早めの接種が推奨される。現状では、四季を問わず流行の再燃が記録されており、新型コロナウイルス感染症自体に明確な季節性が見られないものの、冬季の低温による大気乾燥や室内換気機会の減少に伴い、呼吸器系ウイルスの感染性が総体的に上昇することは容易に想定される。

今後、一定数の感染者が継続して確認される中で、経済活動を継続していく、いわゆる「Withコロナ」の政府方針への対応にあたっては、新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザに関連する健康被害を最小とするため、県民ひとりひとりの自主的な感染予防行動の徹底が重要であることを改めて周知し、県として引き続き感染拡大を抑制するよう対策を講じる必要があることから、専門委員会として、国の基本的対処方針等に準拠しながらも、岩手県としての対応について示すものである。

(2) 県民の皆さんへのアドバイス

ア これまで確立されている感染対策（マスクの正しい着用、手洗い・手指消毒、ゼロ密、適切な換気等）を改めて徹底し、会話や人混みでは屋内・屋外にかかわらず不織布マスクの着用を推奨します。これらは、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザに共通の対策です。

イ 新型コロナウイルスワクチンについては、オミクロン株対応ワクチンの接種対象となっ

ている方は、年末年始の人との接触が増えるタイミングまでに接種を終えられるよう、年内までの接種を検討してください。また、季節性インフルエンザワクチンについても、定期接種の対象者を含め接種を希望する方は、早期の接種を検討してください。

ウ 外出の際には、混雑する場所や換気が悪く大声を出す場面を避けることが基本です。職場の同僚や友人など親しい間柄でも、健康状態が不明の人々との交流や空間の共有は、理由にかかわらず感染拡大の引き金になります。必要な社会活動、経済活動を継続しつつも、より確実な感染対策行動に努めるとともに、確立されている感染対策を怠らないようお願いいたします。

エ 忘年会など会食が多くなる季節を迎えますが、会食については、十分な換気等の感染防止対策を実施している第三者認証店の利用が勧められます。会食はできるだけ少人数で行い、食事中は黙食、会話時にはマスク着用に努める。また、参加者は会食3日前からの健康状態を相互に確認するようにし、症状がある場合には参加の自粛を推奨します。

オ 室内換気については、窓や扉などの常時あるいは定時の開放や空気清浄機の導入を考慮してください。また、保健福祉施設などでは、室内作業時の空調設備連続稼働と退出後1時間程度の積極的換気を推奨します。

カ 県内の感染状況は、誰もが感染者や濃厚接触者になり得る状況にあることから、自宅療養に備えて1週間分程度の生活物資を流動的に備蓄（買い置きの増加）し、感染が確認された際の業務調整や保健所ホームページ等で受診手順を予め確認しておきましょう。また、医療機関・社会維持業務等においては、災害時に準じたBCP（事業継続計画）を整備し、感染者増加時のBCPを確認してください。

キ 御自身や御家族の生活と生命を守るため、軽度の発熱や倦怠感、上気道症状など体調に変化を感じた場合は、まず直ちに外出や面会、就業を控えて（自己隔離）安静にし、市販の解熱剤などを服用し数日間自宅待機するとともに、高熱が続き薬剤が無効・周囲に陽性者が存在する等、新型コロナウイルス感染症の可能性が高い場合には、出来るだけ平日・日中に医療機関に電話してから医療機関を受診し、医師の診断や適切な検査を受けてください。

ク 65歳未満で、重症化リスクの低い方が、新型コロナウイルス感染症を疑うような体調の変化を感じた場合は、薬事承認された検査キットによる自己検査も検討してください。検査結果が陽性の場合、医療機関を介さず陽性者登録センターにおける陽性者登録が可能となっています。

ケ 事業所内の施設で陽性者が確認された場合は、状況に応じて事業所の管理者において濃

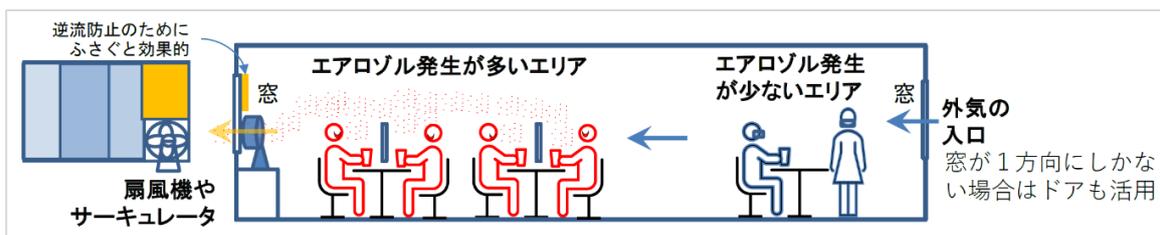
厚接触者に対する自宅待機を要請し、国の基準に沿った隔離期間について指示をしていただきます。

コ 年末年始の人流が増加する時期を迎え、行動制限のない中で実家などに帰省される方や、久しく会っていない友人などに会う機会の増加が予想されます。しかし、あなたが感染すれば、家族などが二次感染することは避けられません、特に高齢者や基礎疾患のある方と会う場合には、双方の健康状況を確認し、ワクチンを指定回数接種し、適宜無料検査などを活用し、各人が感染拡大防止に努力することが必要です。

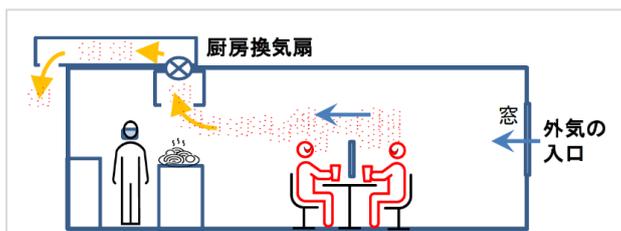
【参考】効果的な換気のポイント（エアロゾル感染を防ぐ空気の流れ）

（出典 新型コロナウイルス感染症対策分科会 感染拡大防止のための効果的な換気について 令和4年7月14日）

- 1 窓が2方向にある場合：エアロゾル発生が多い（会話が多い、人の密度の高い）エリアから扇風機やサーキュレーターで排気し、反対側から外気を取り入れる。



- 2 換気扇がある場合：換気扇で排気し、反対側から外気を取り入れる。



- 3 換気扇・窓がない場合：空気清浄機でエアロゾルを捕集。

